

## 提 言

## Well Baby でやっていく小児科医を目指せ

進藤 静生 (しんどう 小児科)

近年、我が国においては少子高齢化が進み大きな社会問題となっています。われわれ小児科医にとっても子どもの減少への適切な対応が求められています。そこに追い討ちをかけるように、2019年中国武漢市から発生した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界をパンデミックの渦に巻き込んでいきました。

そのような状況のもとわれわれ小児医療界にも多くの影響が出ました。コロナ禍の受診控えで2020年、2021年における患者数減少は、日本中の小児科医にとって今までに経験したことのない大変な出来事でした。おかげで健康保険収入は半減しました。このような時にも毎日コツコツと乳幼児健診や予防接種を行うことが大切であることがわかりました。この経験はまさに今後のわれわれ小児科医が目指すべき方策を示唆していると考えられます。つまり、従来の感染症を中心とした診療体制から脱却してWell Babyを中心とした診療に変えていく必要があることだと思います。これからの小児科診療はどうあるべきかを考えるとき、やはり原点に戻り子どものために何ができるか、いわゆる子どものためのTotal Careを実践していくことに尽きると思います。このことを考えるとき50年前にご指導いただいた恩師である久留米大学名誉教授山下文雄先生の教えが大変参考になります。ずいぶん古いことの様ですが、まさに先見の明がある教えだと思います。現在でも十分通用することですのでその一部を紹介したいと思います。



・小児科医は白衣を脱ぎなさい。

小児科の患者さんの多くは白衣をみると怖がるので、白衣は着ないで診療を行い、子どもたちが受診しやすい医療環境を作り出すことが重要です。

・小児感染症の減少を見据えて、健康小児の診察もしっかり行いなさい。

今後は予防接種の種類が増え感染症が減り、少子化で対象患者数も減少してくるでしょう。感染症など病気の子ども達ばかりを対象にするのではなく、予防接種や乳幼児健診に力を注いで診療に当たるのが重要です。

・園医や校医は小児科医の仕事です。

小児科医は保育園、幼稚園の園医や小学校の校医をすることにより、地域の子どもの成長や発達について関わるができるので、依頼があれば進んで引き受け複数の園医・校医をつとめることも必要です。

・子ども達の心の問題にも関心を持ちなさい。

最近では新聞やテレビの報道で話題に上っていますが、子ども達の心の問題にも注意を払い診療を行うことが大切です。

今回、日本の小児科医はコロナ禍で患者数の減少のため大変苦しい状況に置かれていましたが、健康保険の臨時加算によってどうにか生き延びることが出来ました。しかし、台湾の友人からの情報によると、台湾では健康保険の加算などがなかったために、閉院する小児科医院が多かったとの事です。現在では健康小児を対象にして診療する方針に変わってきているそうです。

我が国においても対岸の火事として傍観しては同じ轍を踏むことになりかねないと思います。そこで、これまでの感染症を中心とした診療から健康小児に対する予防的診療に力を入れていくことの必要性を提言したいと思います。それには予防的診療に対しても、保険医療で十分にカバーできるようになることが不可欠です。今年の4月から「こども家庭庁」が創設されますので、是非日本の子ども達の将来のためにもお金と知恵を注いでいただきたいと思います。